2018年12月18日「奥浅草だより」第17号

山谷の新しいまちづくりの夢

山谷はどこ？　山谷（さんや）とはよく聞きますが、50年前の地番改正により山谷という地名は消えました。山谷通りは吉野通りとなり、町の名から山谷は無くなりました。刑場があったことからついた泪橋（なみだばし）は、明治通りの交差点として残っています。台東区の「清川・橋場・日本堤」と荒川区の「南千住」です。

山谷の小史　江戸時代は奥州街道と日光街道が通る交通の要所で、木賃宿が集まっていました。太平洋戦前期には、労働者が集まる街として、そして戦後になると戦争被災者が上野から移動し、簡易宿泊所が増えました。高度経済成長期には、日雇い労働市場として15,000人が222軒の宿泊所に滞在しました。同時に、山谷騒動が起こり、全国に名を馳せました。1990 年以後、バブルがはじけ、仕事が減り、労働者の高齢化によりホームレスが増えました。いまは、生活保護受給者の多いことから、「福祉の街」とも言われています。そして簡易宿泊所は個室化して、一般客やバックパッカーも泊るようになり、住居用マンションも増えました。

新しいまちづくりとは？　山谷は江戸時代から吉原遊郭を支え、江戸城の鬼門にあたるとして寺の多い地域です。多様な人たちのニーズを満たして、人の尊厳を守るまちづくりに力を入れる動きがあります。山谷カフェやホテルを運営する義平真心さんや山谷酒場を開いた店主など。とくに義平さんは大学の研究機関にも属し、海外の街づくりも参考にしています。彼女の計画は、路上のおじさんたち、商店街、ビジネスホテルや簡易ホテル、一般の人たちにとって、清潔で暖かい、そして面白いまちに山谷を変えようとするものです。

～・～

この「奥浅草だより」は『奥浅草　地図から消えた吉原と山谷』の発行後話題を拾って不定期に発行しております。

サノックスのホームページでもご覧になれます。　http://www.sanox.co.jp

佐野陽子・江原晴郎・森下恒子